

予約なしの受診および夜間・休日の救急診療の増加によってもたらされるもの

予約なしで受診される患者さんの増加などによって、次のことが生じます。

- 当院の医師は外来診療だけではなく入院患者さんの診療にもあたっているため、重篤な患者さんへの影響が懸念されます
- 予約患者も含めた外来診療での待ち時間が増加します
- 十分な診療時間の確保が困難となります
- 医療従事者の長時間勤務により医療の安全性が低下します



どのように地域医療を確保するのか？ —医療提供体制のあり方について—

全国的な医師不足により、日本のへき地だけではなく都市部においても、必要な医療が確保でき

ない地域が出るなど、病院と診療所の役割分担や機能連携をこれまで以上に進める必要があります。

地域での役割分担と機能連携

地域医療連携の取り組みは、役割分担や機能連携を通じて、医師や看護師など地域にある医療資源を有効に利用しようとするものです。

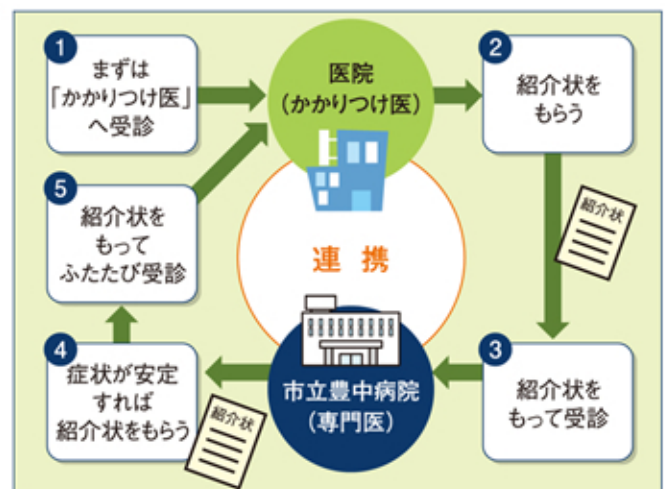
豊中病院は、かつては総合病院としてどのような症状の患者さんにも対応してきましたが、現在では、地域での役割を明確にし、おもに急性期の医療を提供しています。

市立豊中病院の役割

豊中病院は、地域からの紹介患者さんを中心に、特殊・専門外来や手術などの入院治療など、おもに急性期の医療サービスを提供しています。(がん医療や周産期・小児医療の提供、脳や心臓・血管などの循環器系の疾患への対応など)

また、市立病院として、いざという時の救急医療の提供もおこなっています。

豊中病院では、地域の急性期病院として、地域医療の一端を担っています。



急性期医療と慢性期医療

急性期医療は、発症からある程度改善するまでの患者さんを対象とし、専門スタッフによる集中的な医療の提供が必要とされます。一方、慢性期医療は、病状は安定しているが、なお加療を必要とする疾病もしくは障害を抱えている患者さんを対象とし、手厚い介護力とゆったりした療養環境のもとで長期にわたる療養の提供が必要とされます。

豆知識

